

ICTを活用した新たな街づくり 今後の考え方

塩尻市

目次

- 安心・安全な街づくり
 - 24年度「センサーネットワークによる減災情報提供事業」の継続と課題解決
- ICTによる新たな街づくりへの挑戦
 - 情報配信収集プラットフォームの構築
 - 先進領域への挑戦
 - 戦略的な街づくりの実践

24年度「センサーネットワークによる減災情報提供事業」の継続と課題解決

- センサーを使った各種情報の蓄積と分析・課題解決を図りつつ継続することで、減災と防災に役立つ、災害に強い街づくりを実践します。

課題解決



課題を解決しながら情報蓄積と分析を継続
災害に強い街づくりを実践

情報配信収集プラットフォームの構築

- 災害情報を市域の住民や旅行者など、ネットワークの利用者の情報端末に情報を直接配信(下り方向)することだけでなく、市域の住民や旅行者から寄せられる情報(上り方向)を蓄積し、減災情報にとどまらず、次代の自治体に望まれる「協働の街づくり」を実践できるシステムとして、双方向の情報配信収集プラットフォームを構築します。

双方向の情報配信
収集プラットフォーム

定点カメラ・J-ARERT・気象庁注意警戒情報・避難
情報・緊急メール・公共情報コモンズ・臨時災害FM情
報・エリアメール・防災無線

自治体

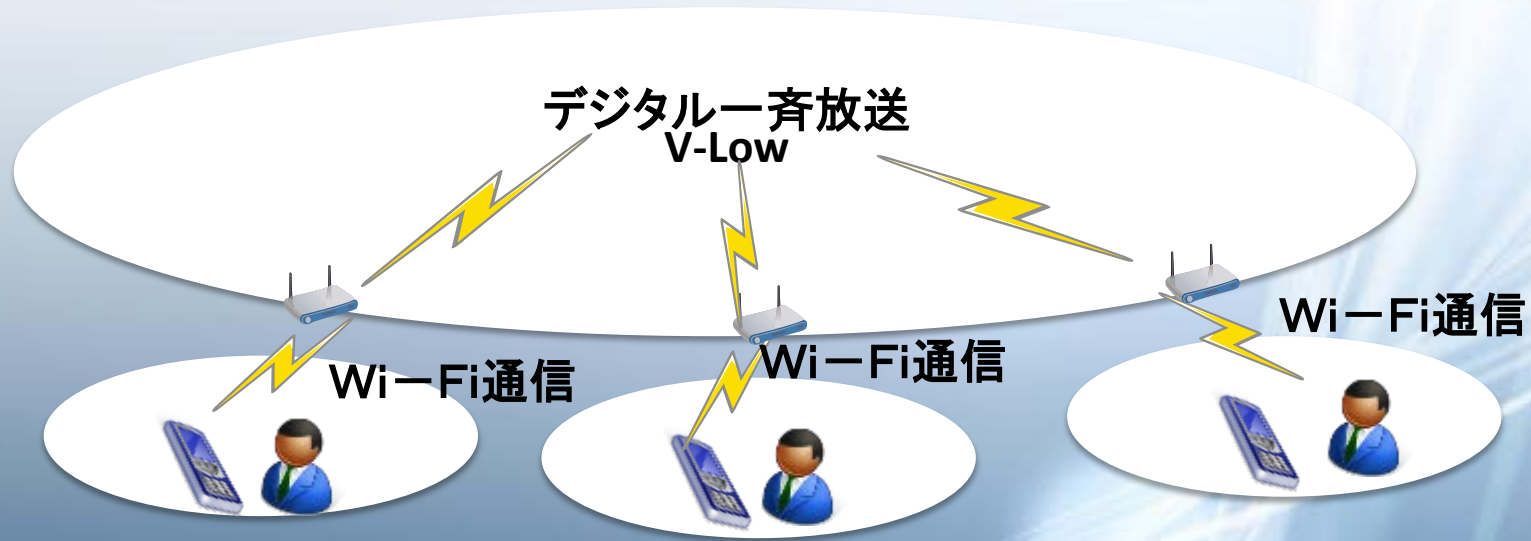
情報共有マネジメントシステム

住民等

災害情報・交通情報・気象情報・事故情報・政策情報・
要望情報・道路情報

先進領域への挑戦

- ・災害時に一斉に住民に災害情報を伝達する手段のひとつとして、デジタル放送（V-Low）とTCP無線通信技術（Wi-Fi）を融合した通信環境を検討します。



戦略的な街づくりの実践

・塩尻市は、平成8年からICT政策を進めてきている。

ICTの重要性とは、知る者の優位性を生かして、ある程度以上の財政規模がある他の自治体ができることと同様以上に可能性があります。

塩尻市総合計画の目指す都市像「ともに築く 自立と創造の田園都市」を具現化するための要素は、

ともに築く: 住民と協働する考えの元、皆で考え、皆で創る政策形成
自立と創造: 財政をゆたかにするための産業育成や経費の削減
田園都市: 文化と愛着のある心の醸成

住民生活のなかで、安心・安全は、特に必要なカテゴリです。不安のあるなかでは、都市像は目指すことができません。そこで、本事業の実証から得た成果から、安心・安全の分野を手がかりとして、次のステップに進みます。

- 1 住民・自治体が双方向の協働の街づくりを実践
- 2 地域の企業ポテンシャルから生じるセンサー関連技術やICTを活用した新たな産業の創造
- 3 将来にわたり塩尻市の継続を約束しながら地域に引き継がれる文化や愛着の心を育む

表現の形こそはデジタルに変わることになりますが、社会に即応できる地域づくりを具体的に創る。

激動の社会情勢のなかで、例えるなら「中小企業自治体」として、文化と地域における住民の愛着の心を養い、生き残っていく手段として効率を求めながら存在する、新たな街づくりに挑戦します。